

# 倉科の家

設計 緑川直彦 + 緑川淳子 / ぐりっぷ建築設計事務所



西側外観・手前は畑・1階にスタジオ・2階に食事室と居間



東側遠景・遠く北アルプスの頂が見える



北西側外観

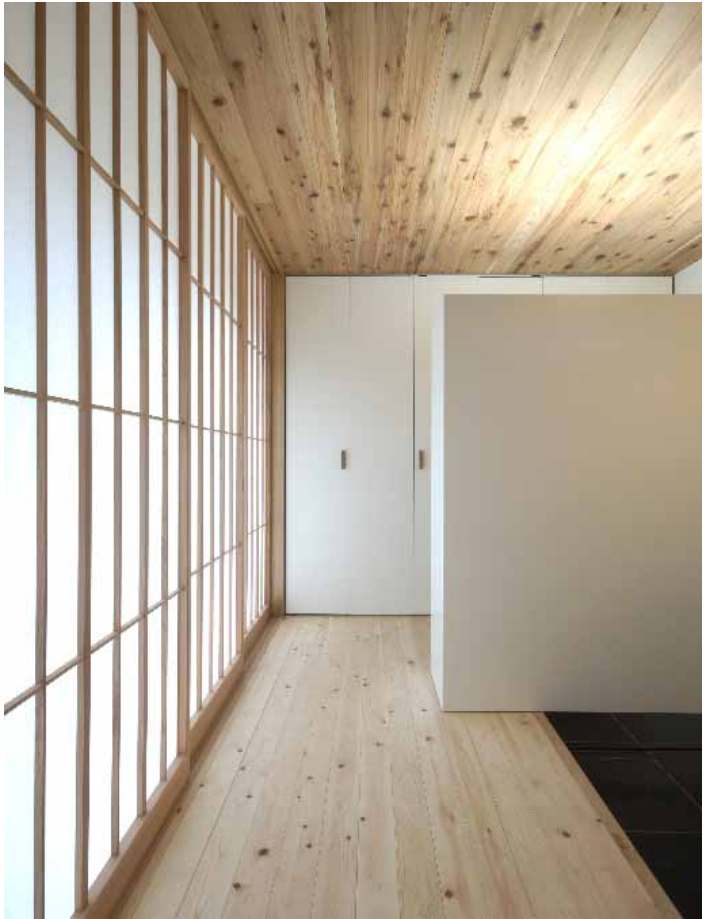




玄関アプローチタ景．駐車を兼ねる前庭と玄関アプローチ．正面の板戸は農機具庫の扉．



東南側外観夕景



玄関ホールは障子越しの柔らかな光があふれる

元々この敷地には農機具庫がありました。それを建替えた「農機具庫のある住宅」です。全体計画の要点は三つ。

- ・変形敷地を機能的にレイアウトして隣接の畑をできるだけ残すこと
- ・隣接する実家の気配を感じながらも正対せずゆとりのある関係にすること
- ・伸びやかで明るい居住空間とすること

これらを実現するためにRC造+木造の3階建てとしました。1階に10坪の農機具庫とその前庭、2台分の駐車スペースを設け、明るさや広さを確保するために、居間や食事室など住宅の主要部を2階に配置。遠く北アルプスの頂が見える西側の眺望を活かしています。2階を少しでも地上に近づけるため、地形なりにスキップフロアとして台所・食事室を中2階にしました。

建主のM氏はサックスを演奏します。その練習室(スタジオ)は、遮音のためRCの躯体へ容れて半地下に。1階躯体は3方にスラブをはねだして食事室と居間を支え上げ、その縁の下は玄関アプローチと畑に面したテラスにしました。

2階の食事室と居間から東へ向かうと主寝室、3階は子供室。L字型平面の中心が階段と水回りです。向きと高さを変えてゆるやかに繋がるスキップフロアは、空間に広がりと多様さをもたらしています。ここでは距離感を伸ばすことを意識して、より長く、広く、変化を感じさせる様に設計しました。例えば、出来るだけフトコロに引き込んだアプローチ。つづら折のようなL字型の短い階段は、「安全な階段を」という建主の要望を踏まえたもので、昇り降りで見えるシーンがどんどん変わります。また、視覚的に斜めの抜けを作ったり、ガラスのランマや格子で透かしたり重ねたりして距離感を生んでいます。

個性的な住宅とする一方で、今回は住宅性能表示制度を使い、設計と建設の住宅性能評価を受けています。建主と耐震性や耐久性や温熱環境などの目標を確認・共有しつつ設計を進め、性能確保に努めました。



2階居間、中央に掘りコタツが仕組みられている、障子は全て引き込み



居間から食事室・台所を見る、民家のような差し鴨居と根太天井は、天井高を稼ぐ工夫



居間から階段ホールを見る

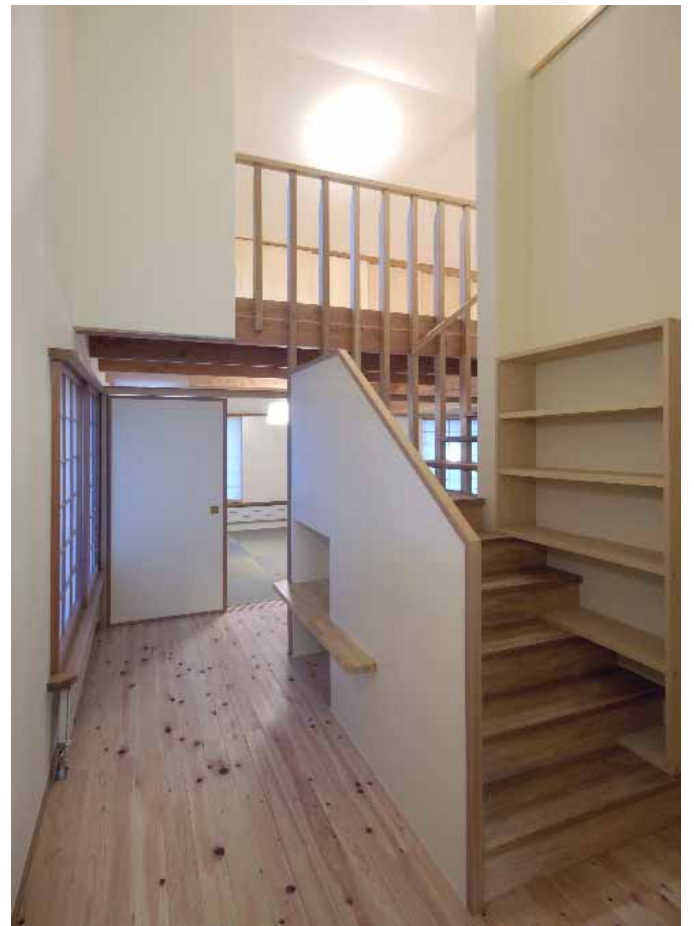




台所から居間・食事室を見る．スキップフロアのレベル差は720mm．居間の床下は引き出し収納



台所．質実で少し素朴な調理台や収納は造作家具



2階ホール吹き抜け．奥は居間．階段にはTELコーナーや本棚

### 【木を活かした住まい】

居住部分は基本的に木造在来工法です。内部は、柱や梁の軸組を現し、構造の力強さ、住まいの安心感を目に見える形にしています。また、階段室を幹、はねだしてスキップする床を梢と見なせば、重なり合う木の部材もあいまって、この家は1本の大きな樹のようでもあります。

床板は無垢のヒノキ板。建て主が自ら蜜蝋ワックスを塗りました。住み手が住まいと対話するのに木という素材はとても向いています。そして、木は時間の流れを受け止めて、しっかりと馴染んでいく素材です。まわりの農村風景に馴染むように外壁には県産カラマツ板を使用しました。未脱脂の天然乾燥材を使ったのは、コストダウンと余計なエネルギーを使わない選択です。



寝室．正面は造作家具のヘッドボード兼書棚．そのむこうは書斎

### 【環境にやさしく快適な住まい】

高断熱は、冬の日向ぼっこの暖かさや夏の夕涼みなど、自然の恵をより有効に享受する手段だと考えます。ここでは、コストと安全性の高さからグラスウール充填工法を基本にして、RC部では蓄熱効果を活かす為に発泡系断熱材の外張り等、部位に応じて適材適所な断熱工法を使用。開口部もLow-Eガラス（高性能複層ガラス）を使ったり、障子を組み合わせたりといった工夫で、次世代基準 地域を越える断熱性能を持たせています。窓は通風を考えて配置。風の無い日でも風が抜けるように吹抜け上部に開閉するトップライトを取付けました。大きな窓には可動ルーバー雨戸を設置し、夏は風を通しながら日射を遮ります。



書斎．窓の外に田園の景色が広がる

### 【家族の温もりを育む住まい】

道路を挟んだ向かいに建て主の両親が住んでいます。農機具庫の前庭がふたつの世帯の中庭となるようにこの家を配置しました。西側には屋敷畑があります。それに面して一休みできるテラスを設けました。日々の暮らしの中で触れ合う機会が自然と出来るようにと思い、食事室や居間を配置しています。夕方、家路の坂道の上で、この住まいは温かな灯で子供達を迎えることでしょう。建物は3階建てながら出来るだけ小さく低く造りました。まわりと馴染ませ、外との繋がりを良くし、家の中の一体感を強める為です。部屋は壁で細かく仕切らず建具や家具で緩やかに可変性を持って仕切っています。姿が直接見えなくても気配がわかる程度に。天井は屋根なりに勾配天井として「ひとつ屋根の下」を感じるようにしています。



3階子供室．左手は小屋裏収納．間仕切りは将来増設の予定





スタジオと1階ホール。壁はグラスウール吸音版。窓から北庭越しに杏の古木が見える



見晴らしの良い食卓



西側外観夕景。2階の大きな窓に暮らしの表情が現れる

### 【長寿命な住まい】

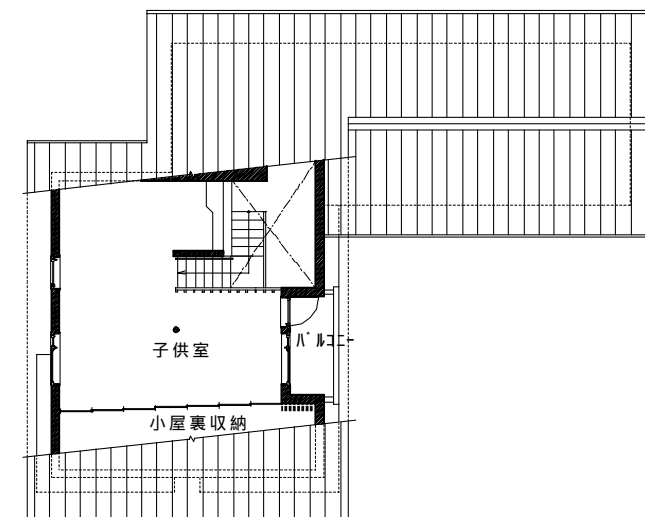
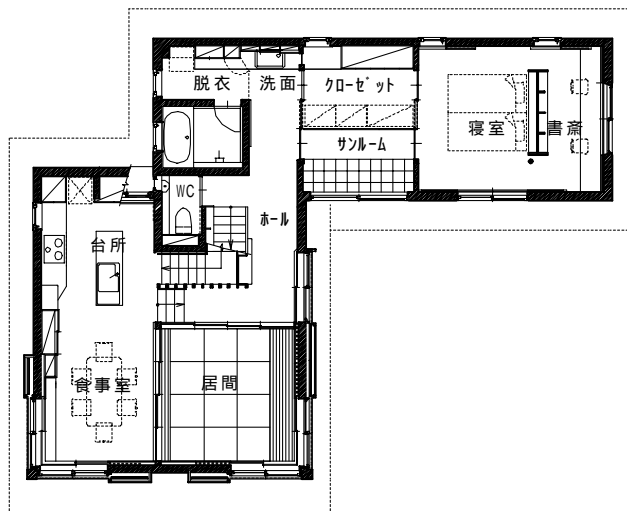
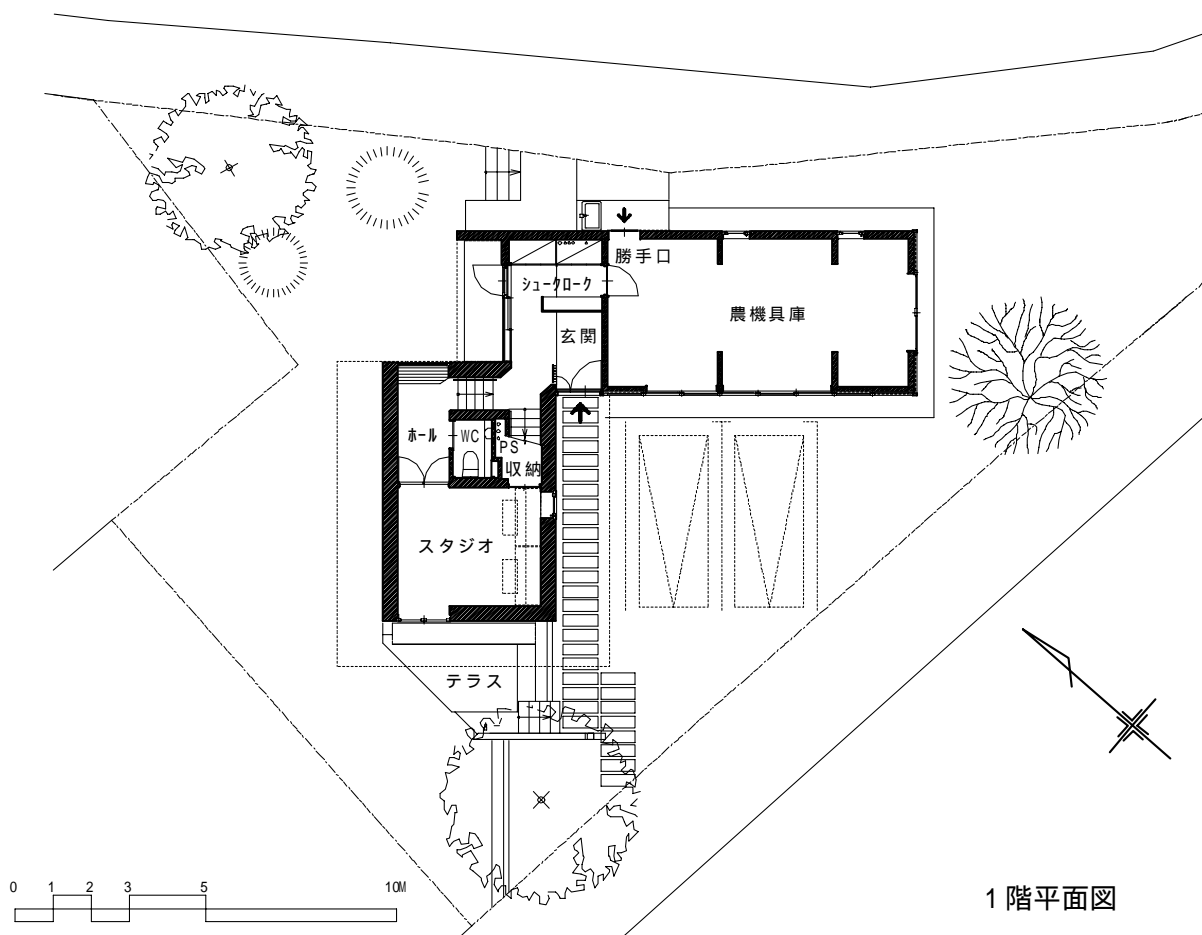
物理的な耐久性向上の為、RC部分はひび割れの出難い密実な躯体を目指しました。コンクリートの配合は水セメント比55%以下、スランプ15としています。打設時に再振動を掛け充填密度を向上、型枠の存置期間を十分に取る、外断熱による躯体保護等の取組みをしました。木造部分は、軒の出を充分に取ることや外壁・屋根の通気層の確保することで軸組みを保護します。防湿気密層の確実な施工、熱橋部を無くす為にグラスウール成形板の付加（外張り）断熱の採用等で壁内結露を防ぎ、耐久性を高めています。耐震性に関しては住宅性能表示の等級2です。

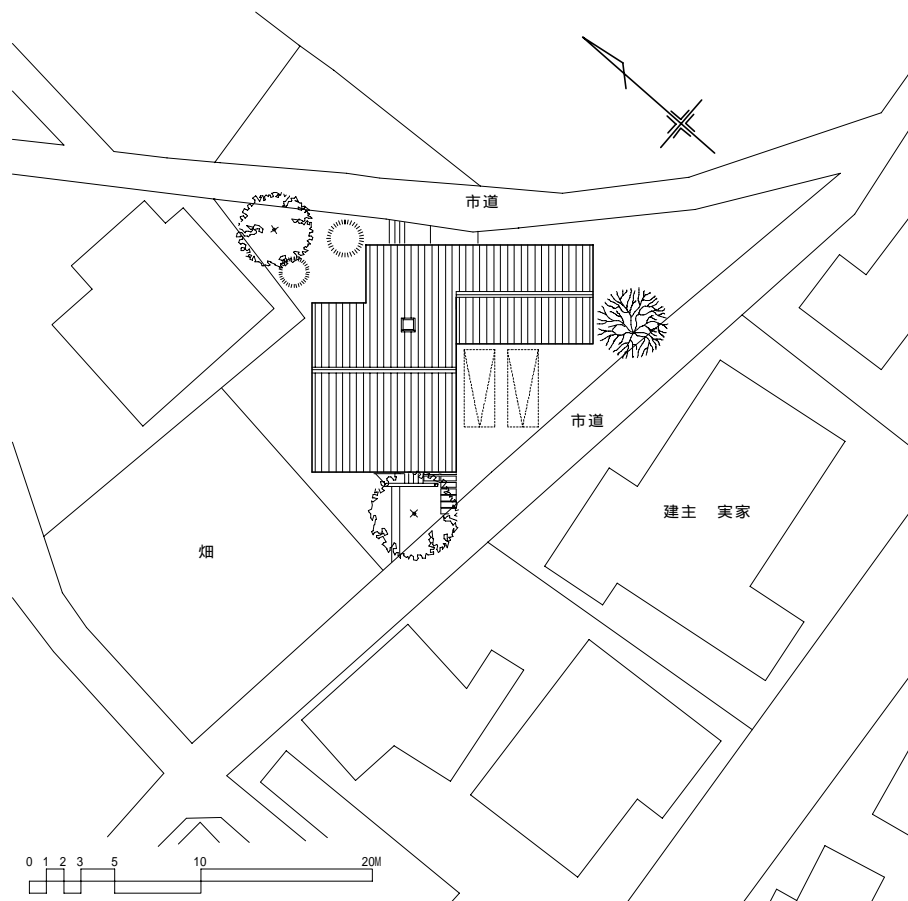
また、メンテナンス性も重要です。内外装には廃盤となる可能性のある製品ではなく普遍的な材料を使うことを心掛けました。将来的な間取りの変更は、農機具庫部分を住まいにする可能性を踏まえて、排水設備を先行配管。3階の子供室は最大3部屋に分割使用を考慮しています。

### 【コスト面での検討ほか】

求める性能、予算内で実現可能な性能を、住宅性能表示の項目や基準を使って、建て主と設計者で認識を共有しながらこのプロジェクトを進めました。限られた予算を有効に使う上でも意味があると思います。

また、コスト面の検討を進めるなかで、材料や設備機器などの目新しい機能や優れた性能を追い求めるより、普遍的な材料や実績のある機器類を手堅く使うことにしました。表面的なスペックより必要とするものをきちんと見つめること。それは住まいの、あるいは暮らしの健やかさにつながると考えています。





配置図

## 倉科 (くらしな) の家

所在地 長野県千曲市

主要用途 専用住宅

家族構成 夫婦 + 子供 2 人

設計-----

緑川直彦 + 緑川淳子 / ぐりっぷ建築設計事務所

施工-----

守谷建工株式会社

構造・構法-----

木造一部鉄筋コンクリート造

規模-----

地上 3 階

敷地面積 312.45 m<sup>2</sup>

建築面積 99.61 m<sup>2</sup>

延べ床面積 196.09 m<sup>2</sup>

1 階 67.80 m<sup>2</sup>

2 階 97.27 m<sup>2</sup>

3 階 31.02 m<sup>2</sup>

工程-----

設計期間 2004 年 10 月 ~ 2005 年 7 月

施工期間 2005 年 9 月 ~ 2006 年 3 月

敷地条件-----

都市計画区域内 用途地域無指定

外部仕上げ-----

屋根 ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き

外壁 カラマツ板縦羽目板張り

開口部 樹脂サッシ 木製建具

内部仕上げ-----

床 ヒノキ無垢フローリング

壁 PB 下地 AEP

天井 PB 下地 AEP

設備システム-----

暖房 灯油 FF 式ボイラー熱源

温水パネルヒーター

換気 第三種機械換気

給水 直接給水

排水 公共下水道放流

給湯 灯油給湯器

-----写真撮影：林安直